

事業名称 (申請団体名)	補助事業区分	提案事業名	事業目的	結果	講評
福祉推進団体 水花火	スタートアップ型 (②自立支援)	福祉のまちづくり計画	福祉推進活動(事業)を行うことにより、福祉がわかりづらい・関わりづらいと思われる課題を解決し、地域住民が気軽に触れる機会を提供する。また老若男女問わず相互作用的な関わり・交流を行うことで「明日一歩前へ進む力を育む」ことを目的とする。	採択	障がい者福祉と関係性の深い事業であり、公益性が高いものと思われる。この事業は、団体としての信頼が必要なので、事業展開の中で他団体からの信頼を高めていくことが求められる。そのため、富田林の300団体の福祉事業者の大半がポータルサイトを利用してくださるよう期待したい。また、経済的自立のためには妥当な価格があると思うので、その点も検討して欲しい。
寺池台5丁目サロン・ド・テラゴ	自由テーマ型	寺池台5丁目サロン・ド・テラゴ	寺池台5丁目には住民の交流拠点となる集会所がないため、誰でも気軽に交流できる居場所、通いの場にもなるサロンを地域の関係者が協力しUR集会所を利用して設置します。超高齢化、孤立化が進む地域において、住宅の種別や町内会の枠を超えて住民の交流を促進することにより、住民の心身共に健康を増進し、地域コミュニティの活性化および地域福祉の向上に資することを目指します。	採択	地域社会として必要な事業なので、高齢者だけでなく、若い世代の人を活動にどのように巻き込むか、経済的自立を含め持続的な運用の工夫が大切だと思う。また、現状で事業の収入より原材料費が高いつていることが懸念点である。
富田林シネマプラス実行委員会	自由テーマ型	富田林寺内町シネマプラス映画祭	1、映画文化の振興 2、まちの活性化と交流人口の増加(富田林寺内町の周知と集客) 3、関係団体の協働	採択	本来の目的は寺内町の活性化であるが、映画というテーマをベースに地域課題を解決できるよう、映画好きの方やスポンサーとなってくれる事業者、多様な団体への広がり、連携が重要かと思う。それが寺内町保全の支援者の広がりにもつながると思う。決算表に自己負担金が計上されており、継続性に懸念点があるが、地域関連人物である織田作之助の映画を上映しているなどブランディングに期待ができ、発展性が見込まれるものと思われる。
NPO法人高齢者大学 シニア富田林 くすのき塾	自由テーマ型	終活を考えよう	今まで健康な生活を送る手助けとして体を動かし頭を使う講座を実施してきましたが、今は、人生100年の時代・独居高齢者・認知症が増加して不安な生活を送っています。今回企画している「終活を考えよう」で、介護予防・認知症予防について学び、又、エンディングノートを作成することで、終末の生き方に対する精神的安定と健康維持、心と体のバランスを保ち健康寿命を高めることができ、地域活動に積極的に参加し、地域が見守り合いながら生活できる住みよい街を目指して、自分らしい終期を迎えることができるということを学ぶ機会の場となることを目的とする	採択	終活の勉強会ということで公益性は評価できるが、受講生が少なく、市民のニーズを受けての市民全体への利益という意味では疑問が残る。今後の終末期の過ごし方の面で、より先駆的な活動の展開が望まれる。参加料の値段設定が安価であるため、継続性に懸念点がある。
すばる第九を歌う会	自由テーマ型	「すべての人々が兄弟になる」―歌声の活動を通して、地域の絆を再生する―	2020年に起きたコロナ過の影響を受け、社会活動は分断され、人間関係は希薄になり、孤立化を余儀なくされました。その影響は大きく、特に高齢者社会においては未だ回復できていない状況があります。 私たちが34年間続けてきた「第九の歌声」活動も甚大な傷を受けましたが、令和4(2022)年に活動の再開を機に、少しずつですが回復に向けて、意欲的に取り組めるようになっていきます。その力の根源は、第九「歓喜の歌」のメロディや歌詞には「すべての人々が兄弟になる」という、ベートーヴェンの人権尊重の想いが込められているからです。 そこで、私たちの合唱団が持つ二つの特性を活かして、歌声活動を地域の絆の再生化につなげていこうと考えました。 ①私達の合唱活動は、男女小学生から90歳の高齢者まで幅広い異年齢で構成されています。この特性を活かして、地域に住む幼児から高齢者まで幅広い世代の交流を創出します。 ②これまでの「第九の歌声を」を通じて、平等・平和・国際理解等の人権尊重の願いを訴えてきました。声を揃えてハーモニーを創る「合唱活動」その特性を活かして地域住民の感性を揺り動かし、絆の大切さを伝えていきます。	採択	会の存続のためが全面に出て、市民ニーズに合っているかが疑問である。合唱団は富田林に多くあるので、それらをつないで第九を歌うのであれば、公益性は高まり、ワークショップの企画や出前演奏に関して、今後の活動に関係するようなヒントがあると思う。実験的な試みとしてのワークショップや出前演奏で新天地を築かれない。参加料の価格設定がやや安価であり継続性に懸念点がある。